

令和 6 年度
川西市認知症地域資源ネットワーク構築事業報告

認知症になっても
自分らしく
暮らせるまちに

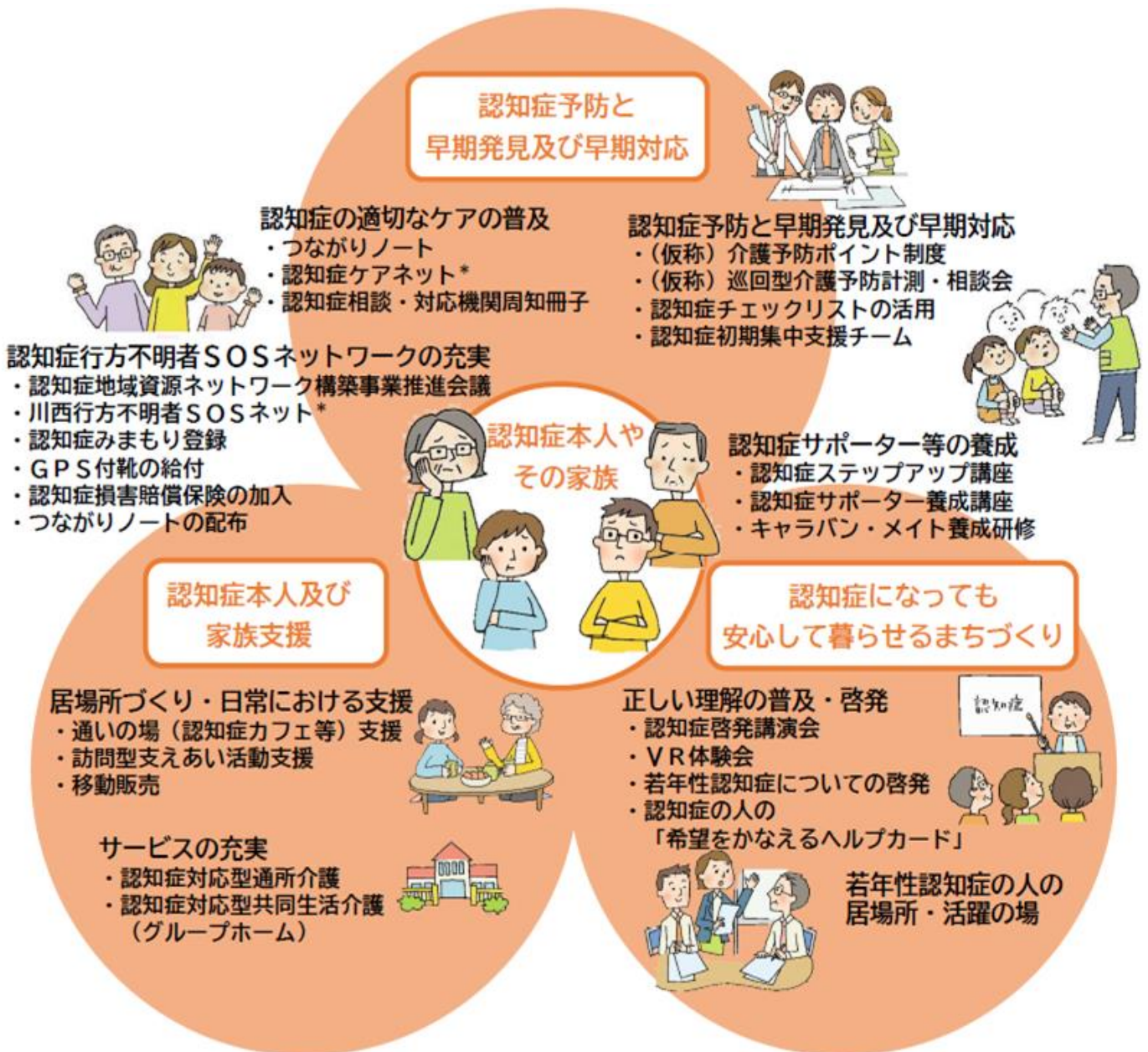


©川西市 2008

～ も く じ ～

1. 認知症対策アクションプランについて…………… P.2
2. 認知症対策アクションプラン令和6年度実績、令和7年度計画… P.3～5
3. 令和6年度 主な新規事業…………… P.6～15
4. 各地区の認知症に関する高齢者の現状…………… P.16～29
令和6年度各地区の認知症に関する活動紹介
令和6年度認知症地域支援推進員の活動紹介

1. 認知症対策アクションプランについて



2. 認知症対策アクションプラン令和6年度実績、令和7年度計画

令和7年1月末現在

分類	区分	取組名称	内容	令和6年度実績	令和7年度計画	
					上期	下期
1	新規	介護予防ポイント制度の創設	介護予防活動や、高齢者を対象とした生活支援活動等の社会参加を通して、生きがいや、認知症も含む介護予防に取り組みきっかけとなるよう、新たにポイント制度を創設します。	1月15日介護予防・健康ポイント事業「笑顔ミライちよきん」開始 参加者：1,559名、登録団体数：212団体、活動数：702活動（令和7年2月現在）	継続して実施 スマホ講習会を2会場で開催	
2	新規	アクティビニアのためのからだ測定会	前期高齢者の段階から自身の健康状態を知り、フレイル対策や認知症予防に取り組みきっかけとなるよう、測定を営む相談会を開催します。	11～12月に7会場で開催、延べ501名参加	継続して実施 7会場で開催予定	
3	既存	認知症チェックリストの活用	初期症状の段階で認知症を発見できるよう、認知症チェックリストの活用を促進します。	特定健診の案内に同封、4,6,8月に19,947件発送	継続して実施	
4	拡充	「つながりノート」を活用した、認知症専門医療機関等と地域包括支援センターとの連携強化	認知症専門医療機関等が認知症診断を受けた対象者情報（本人同意）を地域包括支援センターに提供する仕組みを構築します。	ワーキンググループの立ち上げ	令和8年度 開始予定	
5	新規	受診拒否で医療に結びつかない人の支援	認知症などにより、医療が必要であるにもかかわらず介入困難なケースの早期介入・早期対応につなげるよう、認知症サポート医等が地域包括支援センターと連携して対応する体制を構築します。	他市の先進事例を調査	令和8年度 開始予定	
6	新規	認知症相談・対応機関周知冊子の作成	認知症の進行に合わせて利用することができている医療・介護サービスの内容等を記載した冊子である認知症ケアネットの改訂を行います。	相談場面で使用する「川西市認知症ケアパス～あんしんガイド編～」と、「認知症の診断・治療ができる医療機関一覧」を医師会の協力のもと作成	周知	
7	拡充	認知症地域支援推進員の活動強化	認知症地域支援推進員がチームオレンジコデイネーターを兼務することとで、地域の実情に応じた課題解決等に取り組みます。	4月～チームオレンジコデイネーター兼務	各地域の実情に応じた計画	
8	新規	地域包括支援センターの機能強化	地域包括支援センターの専門職の業務効率化及び負担軽減を進め、機能強化を図るとともに、PDCAサイクルに沿った運営を行います。	4月～各地域包括支援センターに事務員を配置	継続して実施	
9	拡充	認知症初期集中支援チームの機動力の強化	認知症サポート医と医療・介護専門職で構成する「認知症初期集中支援チーム」について、よりタイムリーで機動力のある対応が可能となる仕組みを構築します	対応ケース：3件	継続して実施 チームの周知	

分類	区分	取組名称	内容	令和6年度実績	令和7年度計画	
					上期	下期
10	既存	認知症地域資源ネットワーク構築事業推進会議の開催	認知症に関する支援関係者相互の情報共有と有機的な連携体制のもと、認知症行方不明者SOSネットワークの充実につなげます。	第1回6月26日開催 第2回3月17日開催予定	継続して実施	
11	既存	「認知症みまもり登録」の実施	認知症等の理由により行方不明になるおそれのある高齢者に対し、本人に関する情報を事前に登録し、地域の協力のもと、日頃から地域での見守りを行います。	登録者数：124名（今年度新規申請36名）	継続して実施	
12	新規	認知症みまもり登録者の認知症損害賠償保険への加入	認知症みまもり登録者を対象に、日常生活における事故等の賠償金の補填を行う保険に加入します。	10月～「認知症高齢者等あんしん保険事業」開始 申請：53件 保険金請求件数：0件	継続して実施	
13	新規	認知症みまもり登録者へのGPS靴の給付	希望する認知症みまもり登録者に対し、新たにGPS機能付きの靴を給付し、行方不明時の早期発見につなげます。	10月～「ここやでGPS」開始 申請：12件（靴GPS6件、うち靴加工1件）	継続して実施	
14	拡充	認知症みまもり登録者への「つながりノート」の配布	認知症みまもり登録者本人の情報や必要なケア等を記入することができ、つながりノート」を配布し、本人・家族・専門職間の連携を深めま	8月～認知症みまもり登録者につながりノートⅠ・Ⅲを配布	継続して実施	
15	既存	「川西行方不明者SOSネット」の運用	24時間365日行方不明者情報をメール配信する「川西行方不明者SOSネット」を運用し、行方不明時の早期発見に努めます。	メール配信数：9件（うち川西市民7件）	継続して実施	
16	新規	通いの場への支援	介護予防に資する住民主体の様々な通いの場に対して、活動の継続と活性化に必要な支援を実施します。特に、認知症の人やその家族などが安心して過ごせる居場所である認知症カフェにおいては、専門職の派遣等の支援を行います。	通いの場の現状とニーズを調査	協議を継続	
17	新規	訪問型支えあい活動への支援	地域住民による訪問型支えあい活動を行う団体に対して、活動の継続と活性化に必要な支援を行います	7月～「訪問型支えあい活動補助金」申請受付開始 10月～補助金交付開始 申請団体数：10団体（交付金額89万円） 活動団体交流会2回開催：参加35団体、出席者116名	継続して実施 補助の拡充	
18	拡充	認知症にやさしい移動販売	移動販売を通じて、認知症の人の社会参加の機会を創出するとともに、地域包括支援センター等と連携し、認知症の疑いのある人を発見し、見守る仕組みを整備します。	移動販売：48拠点、69か所（令和7年2月現在）	継続して実施	
19	拡充	認知症対応型通所介護の整備	デイサービスセンターへの日帰りの通所において、認知症の専門スタッフによる入浴・食事の提供、健康チェック、生活指導や機能訓練等を行う「認知症対応型通所介護」を1箇所整備します。	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護を9月に公募、「株式会社 日光ハウジング」を選定	開設予定	
20	拡充	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の整備	身近な地域で家庭的な雰囲気のもと共同生活を行う住居において、入浴・排せつ、食事等の介助や機能訓練等を行う「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」を1箇所整備します。			

分類	区分	取組名称	内容	令和6年度実績	令和7年度計画	
					上期	下期
21	新規	認知症啓発講演会・VR体験会の開催	認知症になじみがない人が体験を通して自分事として認知症を捉えることができよう、認知症啓発講演会やVR体験会を開催します	9月に「認知症フレンドリー講座」を7会場で開催、計198名参加		9月 開催予定
22	既存	認知症啓発活動の充実	認知症月間である9月に合わせて啓発活動を実施します。 また、認知症の人が望んでいることなどを周囲に伝えるツールである「希望をかなえるヘルプカード」を、当事者や家族、地域住民、民間事業所等に周知します。	希望をかなえるヘルプカード、介護マークの作成・周知 3月17日～市役所にて展示ブース設置		継続して実施
23	既存	権利擁護の推進	「川西市成年後見支援センター“かけはし”」等と連携し、適切な制度の利用により、認知症の人の意思が尊重され、認知症があっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう支援します。	「川西市成年後見支援センター“かけはし”」等と連携		継続して実施
24	新規	認知症ステップアップ講座の開催	認知症の人やその家族の支援ニーズと、認知症サポーター等による支援をつなぐ仕組みである「チームオレシ」に参画する人に対し、高齢者の心身等に関する知識を深めるための認知症ステップアップ講座を実施します。	3月に1件開催予定（川北地区ものわすれカフェ）		各地域の実情に応じた計画
25	拡充	認知症地域支援推進員の活動強化※再掲				
26	拡充	若い世代へのとぎれのない認知症サポーター養成講座の開催	小学校・中学校・高等学校等にキャラバン・メイトを派遣し、認知症サポーター養成講座を開催します。	小学校：けやき坂小、清和台南小 中学校：川西南中、川西中、明峰中、緑台中 大学：大阪青山大学		講座随時開催
27	既存	キャラバン・メイト養成研修の実施	認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバン・メイトを養成するために、伊丹市、宝塚市、三田市、猪名川町と共同で、キャラバン・メイト養成研修を実施します。	11月21日川西市で開催、38名受講（うち川西市8名）	県 開催予定	三田市 開催予定
28	拡充	若年性認知症についての啓発	若年性認知症に対する正しい理解を広めるとともに、兵庫県で実施する事業主向けの支援施策の活用や、若年性認知症支援コーディネーターとの連携等の取組を進めます。	認知症月間の啓発にて、あわせて実施		継続して実施
29	新規	若年性認知症の人を対象とした通いの場の創設	若年性認知症の人やその家族が認知症に関する情報を交換したり、悩みを相談することのできる通いの場を創設します。	若年性認知症の人や関係機関と意見交換を実施		協議を継続
30	拡充	若年性認知症の人を対象とした就労支援等の実施	若年性認知症の本人及び家族が、状況に応じた適切な支援を受けられるよう、関係機関と連携し、本人及びその家族への相談等を、障がい者施策と一体的に行います。	1月6日障がい者雇用・就労支援センター開設（障害福祉課）		継続して実施

3. 令和6年度 主な新規事業

川西市介護予防・健康ポイント事業

笑顔 ミライちょきん

わたしも！あなたも！
一緒に
介護予防活動しよう！



介護予防
活動に
参加したい

かわにしサポートナビ〈かわナビ〉で検索

<https://chiiki-kaigo.casio.jp/kawanishi>

例えば



支えあい活動



通いの場



講座



介護予防
活動団体
募集中！

私たちのやっている活動ってポイント対象？

↓
随時受付中です！

川西市介護保険課へお問い合わせください

登録申請方法など、市ホームページにも掲載しています

https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/kurashi/fukushi_kaigo/1017467/1001127/1020341.html



無料相談できます(要予約)

※相談内容によっては有料の場合があります

 SoftBank

➢ ソフトバンクラソラ川西
川西市栄町11-1ラソラ川西2階
072-744-0480

➢ ソフトバンクイオンタウン川西
川西市多田桜木1丁目4-1
072-791-0112

➢ ソフトバンクイオンモール猪名川
猪名川町白金2丁目1-1
イオンモール猪名川2階
072-744-3628



➢ a u ショップ 川西
川西市栄町11-1
ラソラ川西1階
0800-700-1677

笑顔

ミライちょきん

介護予防に
つながる活動に
参加するともらえる介護予防
ポイント歩いて目標を
達成することで
もらえる健康
ポイント

キャッシュレスポイントと交換しよう！

参加方法

1

スマホからアプリをダウンロード

iOSを
ご利用の方Android
をご利用
の方

2

介護予防ポイント

1 介護予防活動へ参加

訪問型
支えあい活動

通いの場



講座

2 会場でQRコードを
読み込みポイント獲得

健康ポイント

1 1日目標歩数を達成

40歳から64歳まで:1日8,000歩
65歳以上 :1日6,000歩2 月16日達成すると
自動で月末に抽選！！

3

ポイントを貯めてお好きな
キャッシュレスポイントなどと交換

年間最大5,000円分

当選通知からお好きな
キャッシュレスポイントと交換

1,000円分を月10名

選べるキャッシュレスポイント



Visaギフトカード

V-プリカギフト



クオ・カード ペイ

電子マネー
WAON
ポイント

ポイント



Ponta

介護予防ポイントは
ギフトカードなども
選べる

QUO

クオ・カード



本キャンペーンは川西市による提供です。本キャンペーンについてのお問い合わせはAmazonではお受けしていません。お問い合わせ先までお願いいたします。Amazon、Amazon.co.jp およびそれらのロゴはAmazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。/「Vプリカギフト」は、ライフカードが発行するVisaプリペイドカードです。/「QUOカードPay」もしくは「クオ・カード ペイ」およびそれらのロゴは株式会社クオカードの登録商標です。/「lau PAY」は、KDDI株式会社の登録商標です。/「WAONポイントID」は、イオンリテール株式会社との発行許諾契約により、株式会社NTTカードソリューションが発行する電子マネーギフトです。/「WAON(ワオン)」は、イオン株式会社の登録商標です。/ PayPayポイントは出金、譲渡不可です。PayPay / PayPayカード公式ストアでも利用可能です。/「nanaco(ナナコ)」と「nanacoギフト」は株式会社セブン・カードサービスの登録商標です。/「nanacoギフト」は、株式会社セブン・カードサービスとの発行許諾契約により、株式会社NTTカードソリューションが発行する電子マネーギフトサービスです。/本キャンペーンについてのお問い合わせは株式会社セブン・カードサービスではお受けしていません。お問い合わせ先までお願いいたします。/「Ponta」は、株式会社ロイヤリティ マーケティングの登録商標です。/「Pontaポイント コード」は、株式会社ロイヤリティ マーケティングとの発行許諾契約により、株式会社NTTカードソリューションが発行するサービスです。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。 ※アプリ画面はイメージです。

川西市
Kawanishi City

お問い合わせ先

笑顔ミライちょきんコールセンター

TEL 0120-524-501

受付時間 9:00~17:00
(土日祝、年末年始は除く)詳しくは
こちら

認知症高齢者等あんしん保険事業

事業内容は？

認知症の人が日常生活における偶然な事故により、他人にケガを負わせたり、他人の財物を壊した等によって、法律上の損害賠償責任を負ってしまった場合に、市がその賠償金を保険で補償する事業です。



加入要件は？

以下の3つの条件をすべて満たす方は、保険にご加入いただけます。

- ・川西市に住民票があり、居住されている方
- ・「川西市認知症みまもり登録」の登録をされている方
(※一部施設入所者、長期入院者は対象外)
- ・他の認知症損害賠償保険に加入されていない方

※介護保険サービスにおける施設及び居住系サービスを利用している、病院又は診療所に90日以上入院している、障害者支援施設、救護施設又は更生施設、養護老人ホーム等に入所している方は対象外です。

被保険者は？

本人（＝加入要件を満たした方）



費用の負担額は？

無料

※市が保険契約者となります。

保険金額は？

上限1億円

お問い合わせ

川西市福祉部 介護保険課 中央地域包括支援センター
Tel:072-755-7581 Fax:072-740-2003

三井住友海上火災保険株式会社 兵庫支店 阪神支社
Tel:06-6491-8911 Fax:06-6491-8941

主な事故例

被保険者であるご本人が、日常生活で他人にケガをさせたり、他人の財物を壊したりなどにより、法律上の賠償責任を負う場合
1 事故につき保険金額を限度に保険金をお支払いします。

誤って他人の自転車を壊してしまっ



レストランで食事中に、誤って椅子を汚してしまっ



漏水事故を発生させ、階下の建物や家財に損害を与えてしまっ



Q&A

Q1：「川西市認知症みまもり登録」に登録したいときはどうするの？

お住まいの地域を担当している地域包括支援センターへご相談ください。
担当者が、登録手続きをご説明いたします。

お住まいの地域を担当する地域包括支援センターは、右記の二次元コードから確認、
または、中央地域包括支援センターまでご連絡ください。



Q2：保険に加入できない施設入所者、長期入院者とは？

下記の施設で生活している方は、保険に加入できません。ご自身が生活している施設が、該当するか不明な場合は、施設の職員、川西市中央地域包括支援センター又はお住まいの地域を担当している地域包括支援センターへご確認ください。

- ア 施設サービス（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院及び地域密着型介護老人福祉施設）
- イ 居住系サービス（認知症対応型共同生活介護、特定施設入居者生活介護及び地域密着型特定施設入居者生活介護）
- ウ 病院又は診療所に90日以上入院
- エ 障害者支援施設・救護施設又は更生施設・養護老人ホーム

事故が起こった場合は、まずコールセンターにお電話ください。
（お手元に参加者証を用意し、証券番号・ご本人のお名前をお伝えください。）

三井住友海上事故受付センター
フリーダイヤル（24時間365日受付）
0120-258-189

川西市認知症高齢者等GPS利用促進事業

どこ行ったん？

ここやでGPS

川西市認知症高齢者等GPS利用促進事業は、認知症高齢者等が行方不明になった際に、ご家族等がGPSを活用して、早期発見または事故等の未然防止につなげる事業です。

- ・道迷いが心配で、常に見守りをしなければならない・・・
- ・知らないうちに出かけてしまいさがすのが大変だった・・・
- ・道迷いが心配だけど、GPSは持って出かけてくれない・・・



こんなことでお困りでは
ありませんか??



そんなお悩みに！

川西市に住民票のある「川西市認知症みまもり登録」の登録者（一部施設入所者・長期入院者は対象外）を対象に、**GPS機器、GPSを内蔵できる専用シューズなどの付属品等の購入やレンタルの初期費用の一部について、20,000円を上限として負担します。**

※初期費用の上限を超えた分と月々の利用料等は、自己負担となります。

申込手順

1. お住まいの地域を担当する地域包括支援センターに連絡し、「川西市認知症みまもり登録」に登録

お住まいの地域を担当する地域包括支援センターは、右記の二次元コードから確認、または中央地域包括支援センターまでご連絡ください。



2. 「川西市認知症高齢者等GPS利用促進事業申請書」に記入して市へ申請

※登録企業は、裏面の比較表及び別添チラシをご覧ください、お選びください。
後日、企業から利用契約のための連絡があります。

<お問い合わせ>

川西市福祉部介護保険課 中央地域包括支援センター TEL:072-755-7581 FAX:072-740-2003

ここやでGPS 登録企業サービス内容・利用料比較表

◆サービス内容

登録企業	ホームネット(株) (03-5285-4538)	(株)あんしんサポート (092-843-1881)	セコム(株) (072-759-8151)
GPS端末サイズ・重さ	縦 47.5mm 横 38.5mm 幅 11.8mm 約 25 g	縦 49mm 横 49mm 幅 15.5mm 約 39 g	縦 84mm 横 46mm 幅 16mm 約 67 g
連続待受時間	最大480時間	最大1,140時間	最大350時間
コールセンター検索依頼	○	○	○
インターネット位置検索	○	○	○
エリア通知 ※あらかじめ登録した場所を通過したときに通知する機能のこと	○	○	○
日常生活賠償保険	○ (3億円)	なし	なし
現場急行依頼	なし	なし	○
端末収納シューズ	○ (1種類)	○ (3種類)	なし
靴加工サービス	○	なし	なし
介護者向け電話相談	○ (R7.4～)	なし	なし

◆サービス利用料（税込）

市負担の利用料（☆の合計額2万円まで）

☆ 初期費用	7,700円	7,700円	4,950円
☆ 端末収納シューズ	9,900円	9,680円又は11,880円	なし
☆ 靴加工サービス	14,300円～	なし	なし
☆ 充電器	(初期費用に含む)	(初期費用に含む)	2,750円又は6,490円

利用者負担の利用料

月額負担額	2,200円	1,980円	1,320円
コールセンター検索依頼	無料 (回数制限無し)	無料 (回数制限無し)	220円/回
現場急行	なし	なし	11,000円/時間
インターネット位置検索	無料	無料	無料

持って安心！使って便利！

希望をかなえるヘルプカード

認知症の人などが、自分が望んでいること（やりたいことや続けたいことなど）を、安心してスムーズにできるために、自分が使うカードです。自分が望むことやわかってほしいこと、お願いしたいことを書いておき、必要な時に周りの人に見せて使います

使うメリット

道行く人やお店、銀行、交通機関などで働く人も、カードを見ると必要なことがすぐわかるとても好評です。

○自分をわかってもらえる

外見から気付いてもらいにくいことを、カードで伝えることができる

○うまく話さなくても、望みや伝えたいことをわかってもらえる

話しにくかったり、言葉が出にくくても、カードを見せることで相手にスムーズに伝えることができる

○忘れても大丈夫

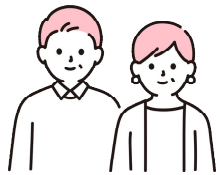
カードに書いておけば、忘れても確認できる

○緊急時や災害時の備えになる

普段から外出時に持ち慣れているといざという場合に役立つ



中高年の方 認知症の方へ



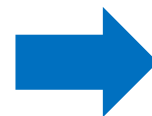
認知症になってからも、希望をかなえるヘルプカードを持って、一人で安心して楽しく外出を続けている人たちが増えてきています。
カードのひな形があります。自分に合ったカードを作ってみませんか？

地域の方 まちで働く方へ



自分のまちやお店等で、希望をかなえるヘルプカードのことを伝えあっていきましょう。
このカードを提示されたときは、ちょっとした手助けをお願いします！

ヘルプカードを使っているご本人からの
メッセージ動画です



詳しくは…

DCネット 希望をかなえるヘルプカード

検索

問い合わせ先

川西市福祉部介護保険課 中央地域包括支援センター
電話 072-755-7581

自分用のカードを作ってみましょう

○カードの一例です

見た人がわかりやすいように、
伝えたいことをはっきりと書きましょう

どの電車が教えてください

JR 川西池田駅に
行きたいです。

この操作を教えてください

セルフレジで
支払いたいです。

ここに行く道を教えてください

川西市役所に
行きたいです。

○自分に合った持ち方の工夫をしましょう



名刺入れや財布に入れる



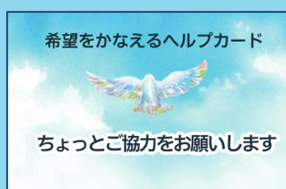
カバンやベルトにつける



お薬手帳にはさむ

○ヘルプマーク等との違い

希望をかなえるヘルプカード



- ・ 認知症の本人が使用する
- ・ 診断前後から進行後も幅広く利用する
- ・ 本人が望みをかなえる上での不安や不自由を解消するための内容を記載する

ヘルプマーク・ヘルプカード



- ・ 外見ではわからないが、援助や配慮を必要としている人が使用する
- ・ 持ち物等につけて周囲に援助や配慮を必要としていることを知らせる

・ 配慮等を求めたい場面でカードを提示し、必要な配慮や援助の内容を相手に知らせる

- ・ 市ホームページからダウンロード、または市中央地域包括支援センターで配布（申請不要）



- ・ 市地域福祉課等で配布（要申請）



～介護をする人にやさしい社会へ～

介護マークを ご利用ください！



「介護マーク」とは

認知症の方などの介護を行う際には、周囲の人から見ると介護していることがわかりにくく、誤解や偏見を持たれることがあります。介護する方が介護中であることを周囲に理解していただくためのマークです。

使う場面

- 介護していることを周囲にさりげなく知ってもらいたいとき
- 駅やサービスエリア等のトイレで付き添うとき
- 介護者が異性の下着を購入するとき 等



障がいの種別や症状を問わず介護をする際に使用できます。

市ホームページからダウンロードし、首からかけられるようにストラップ付ケースに入れるなどしてご利用ください。

外出先でこの
マークを見かけ
たら、温かく見
守ってください



4. 各地区の認知症に関する高齢者の現状

令和6年度各地区の認知症に関する活動紹介
～活動者の声～

令和6年度認知症地域支援推進員の活動紹介

各地区の認知症に関する高齢者の現状

小学校区名 地区福祉委員会名	全 市	久代小校区 久代小地区	加茂小校区 加茂小地区	川西小校区 川西小地区	桜が丘小 校区 桜小地区	川西北小 校区 北小地区	明峰小校区 明峰小地区	多田小校区 多田地区
人口	153,510人	9,242人	10,808人	13,226人	8,665人	10,989人	14,496人	9,940人
65歳以上人口 (人口構成比)	48,403人 (31.5%)	2,279人 (24.7%)	3,202人 (29.6%)	3,733人 (28.2%)	2,773人 (32.0%)	2,800人 (25.5%)	4,812人 (33.2%)	2,849人 (28.7%)
65歳以上の 要支援・要介護認定を 受けていない人 (65歳以上人口構成比)	38,430人 (79.4%)	1,810人 (79.4%)	2,442人 (76.3%)	2,818人 (75.5%)	2,144人 (77.3%)	2,104人 (75.1%)	3,897人 (81.0%)	2,316人 (81.3%)
65歳以上の 要支援・要介護認定者 (65歳以上人口構成比)	9,973人 (20.6%)	469人 (20.6%)	760人 (23.7%)	915人 (24.5%)	629人 (22.7%)	696人 (24.9%)	915人 (19.0%)	533人 (18.7%)
施設入所の要支援・要 介護認定者	1,151人	59人	95人	107人	69人	57人	97人	80人
在宅の要支援・ 要介護認定者	8,822人	410人	665人	808人	560人	639人	818人	453人
認知症Ⅰ	1,807人	71人	149人	164人	121人	141人	166人	81人
認知症Ⅱa	796人	35人	74人	72人	63人	61人	76人	42人
認知症Ⅱb	1,827人	96人	144人	179人	104人	119人	184人	103人
認知症Ⅲa	1,110人	70人	76人	93人	62人	84人	120人	44人
認知症Ⅲb	175人	7人	15人	19人	10人	18人	13人	12人
認知症Ⅳ	259人	9人	21人	26人	18人	14人	31人	17人
認知症M	22人	4人	2人	2人	2人	2人	2人	1人
小計(認知症Ⅰ～M)	5,996人	292人	481人	555人	380人	439人	592人	300人
(参考: 認知症自立)	2,756人	113人	177人	247人	175人	192人	222人	149人
(参考: 自立度不明)	70人	5人	7人	6人	5人	8人	4人	4人
認知症みまもり登録者数	192人	8人	15人	16人	14人	17人	24人	16人
民生委員・児童委員	228人	16人	15人	21人	13人	17人	21人	12人
地区福祉委員会	1,172人	53人	78人	63人	55人	70人	85人	77人
キャラバン・メイト活動者	178人	17人	14人	10人	6人	7人	7人	14人
認知症サポーター(新規)	1,730人	86人	149人	75人	25人	214人	53人	186人

※令和6年3月31日現在

※小学校区と地区福祉委員会の名称は必ずしも一致しません。

※65歳以上の要支援・要介護認定者の内訳は、介護認定認定調査票より抽出しています。

住所地特例の人は除いています。

小学校区名 地区福祉委員会名	全 市	多田東小 校区 多田東地区	緑台小・ 陽明小校区 グリーンハイツ 地区	清和台小・ 清和台南小 校区 清和台地区	けやき坂小 校区 けやき坂小 地区	東谷小・ 黒川小校区 東谷地区	牧の台小 校区 大和地区	北陵小校区 北陵地区
人口	153,510人	12,824人	13,686人	11,913人	6,510人	12,958人	10,804人	7,449人
65歳以上人口 (人口構成比)	48,403人 (31.5%)	3,734人 (29.1%)	5,533人 (40.4%)	4,576人 (38.4%)	1,646人 (25.3%)	3,902人 (30.1%)	4,232人 (39.2%)	2,332人 (31.3%)
65歳以上の 要支援・要介護認定を 受けていない人 (65歳以上人口構成比)	38,430人 (79.4%)	3,035人 (81.3%)	4,281人 (77.4%)	3,778人 (82.6%)	1,361人 (82.7%)	3,185人 (81.6%)	3,274人 (77.4%)	1,985人 (85.1%)
65歳以上の 要支援・要介護認定者 (65歳以上人口構成比)	9,973人 (20.6%)	699人 (18.7%)	1,252人 (22.6%)	798人 (17.4%)	285人 (17.3%)	717人 (18.4%)	958人 (22.6%)	347人 (14.9%)
施設入所の要支援・要 介護認定者	1,151人	71人	133人	108人	31人	92人	98人	54人
在宅の要支援・ 要介護認定者	8,822人	628人	1,119人	690人	254人	625人	860人	293人
認知症Ⅰ	1,807人	118人	240人	136人	42人	136人	171人	71人
認知症Ⅱa	796人	51人	78人	64人	29人	59人	67人	25人
認知症Ⅱb	1,827人	124人	236人	114人	52人	135人	183人	54人
認知症Ⅲa	1,110人	82人	162人	85人	34人	60人	107人	31人
認知症Ⅲb	175人	9人	15人	14人	6人	12人	17人	8人
認知症Ⅳ	259人	16人	20人	23人	5人	23人	22人	14人
認知症M	22人	0人	2人	1人	0人	3人	1人	0人
小計(認知症Ⅰ～M)	5,996人	400人	753人	437人	168人	428人	568人	203人
(参考: 認知症自立)	2,756人	216人	365人	248人	85人	193人	289人	85人
(参考: 自立度不明)	70人	12人	1人	5人	1人	4人	3人	5人
認知症みまもり登録者数	192人	21人	12人	13人	2人	15人	13人	6人
民生委員・児童委員	228人	18人	21人	19人	9人	21人	14人	11人
地区福祉委員会	1,172人	78人	159人	99人	51人	95人	115人	94人
キャラバン・メイト活動者	178人	24人	13人	31人	10人	5人	11人	9人
認知症サポーター(新規)	1,730人	70人	212人	121人	120人	0人	119人	300人

【久代小地区】

昨年度に続き、キャラバン・メイトが地域の“久代まつり”で啓発活動をしました。

福祉ネイルコーナーを設け、若い世代の人を呼び込み、認知症についての関心度アンケートの協力を呼びかけました。



【加茂小地区】

地域ケア会議に参加し、認知症の本人が地域のグランドゴルフやカフェで、共に楽しく過ごせるように話し合いました。

川西市と医師会が共催で作った連携ツール「つながりノート」の連絡会にも、積極的に参加し学びを深めています。

【久代小地区・加茂小地区合同】

川西南中学校の1年生対象に、認知症サポーター養成講座を開催。講義の後、寸劇と映画を見てグループワークをしました。寸劇では1年生の演劇部の生徒がキャラバン・メイトと共に名演技！グループワークではキャラバン・メイトが学生の中に溶け込みファシリテートし、活発な発表がなされました。



南中～
ファイトオー！

生徒の話を引き出し、聴く

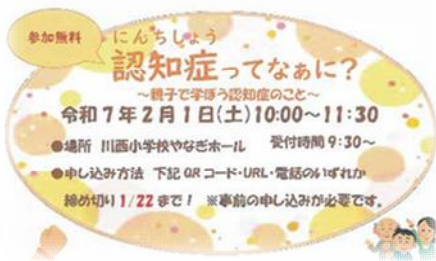


【川小地区】

今年度の活動としては定例会議を4回、認知症サポーター養成講座を1回開催しました。認知症サポーター養成講座では、小学校PTAの方々と昨年度から検討を重ね、親子を対象とした講座を実現しました。この親子向け講座は初めての試みでしたが、多くの方にご参加いただきました。内容は小学生にも分かりやすい構成とし、○×クイズを取り入れることで、低学年の子どもたちも楽しみながら学べるものにしました。

また定例会議では、小学校区内にある「そんぽの宿 鶴の荘」の施設長にご参加いただき、施設入所者とキャラバン・メイトが交流できる機会を作れないかと意見交換を行いました。具体的な交流の実現には至っていませんが、今後も引き続き検討し、実現に向けて模索していきたいと考えています。

来年度もさまざまな企画を通じて、認知症に関する普及啓発活動をさらに進めていきたいと思っています。



【桜小地区】

今年度は、3か月ごとの定例会議を4回と認知症サポーター養成講座を1回開催しました。

認知症サポーター養成講座は、東花会館にて桜小地域住民を対象に実施しました。講座では、認知症についての座学とキャラバン・メイトによる寸劇を通じて、認知症への理解を深め、対応方法をわかりやすく伝えました。

また今年度は、新しいキャラバン・メイトが活動に参加し、更なる活気がうまれました。今後も地域住民へ認知症の理解を深めてもらえるよう活動していきます。



【北小地区】

毎月の定例会議と認知症カフェを開催しました。

認知症カフェには毎回20名以上が参加し非常に盛り上がっています。若年性認知症の方を介護するご家族の講話や毎年恒例の演奏会も実施し、参加者の皆さんに楽しんでいただくことができました。

また今年度もメガネのパリミキの喫茶コーナーをお借りし、認知症カフェを3回開催しました。この取り組みは今年で4年目となり、参加者からは「ゆっくり話ができ心地が良い」とお声をいただいています。



【明峰地区】

6月に明峰地区初めての認知症カフェ「笑(しょう)カフェ」がオープンしました。場所は、小規模多機能型居宅介護事業所の2階で、毎月第3木曜日の14時から開催しています。景色も良く落ち着いた雰囲気です。誰でも参加可能となっています。

サロンたんぽぽや、春と秋の年2回開催の青空ふれあい広場など、色々な形の居場所があることで、お一人暮らしの方でも、地域と繋がるきっかけになります。また、専門職がいることで認知症や介護保険などのご相談にも乗らせていただきます。

12月13日に「認知症行方不明者SOSネットワーク訓練」を開催しました。毎年、声かけ訓練が主となっていましたが、より実践的な訓練になればとの思いで、今回は初めての試みで、情報共有や連絡方法に、携帯電話のグループライン機能を使って情報のやりとりを行いました。警察への通報の次に地域へ連絡して、明峰地区ネットワーク構成員に捜索を依頼します。訓練開始前に、キャラバン・メイトから説明をして、寸劇を通して行方不明までの経過をお伝えさせていただきました。

訓練として確認しておくことで、いざという時に地域の方も安心した行動が取れるのではと考えています。



【多田地区】

10月9日に地区の中心部にあるイオンタウン川西において、多田東地区主催の認知症行方不明者SOSネットワーク訓練に参加しました。

また、多田公民館では、毎月第4水曜日に認知症予防脳トレゲームを行っています。偶数月はスローイングゲーム、奇数月は三室先生によるナツメロ健康ストレッチを楽しんでいます。

毎月第3火曜日は認知症カフェ「オランジュ多田」を開催しています。毎月違ったイベントを行うことで参加者に喜んでいただいています。



【多田東地区】

10月9日イオンタウン川西において、「認知症行方不明者SOSネットワーク訓練」を行いました。行方不明の方に声をかける訓練です。思い切って一声かけるのが大切です。平日にも関わらず、従業員の方、多田地区や地域住民36名の参加がありました。

また、「ほっこりのわ」を毎週月曜日に多田東会館で開催しています。どなたでも来ていただき、お茶を提供しています。その中で偶数月の第4月曜日に認知症カフェ「オレンジのわ」を開催しています。いろいろな催しを考えています。特にハンドマッサージが好評です。おしゃべりをしながらマッサージを行い、さりげなく困っていることをお聞きし、包括に繋げています。



【緑台地区】

キャラバン・メイトの活動として、地域の認知症サポーター養成講座や認知症行方不明者SOSネットワーク訓練だけでなく、認知症に関する活動強化のため、メンバーの連絡会と事務局会議を交互に毎月開催しています。

年間事業計画として4月の連絡会では川西市施策「認知症対策アクションプラン」の概要説明を受け、最新の情報を共有しました。11月には緑台地域包括支援センター主催の「地域包括フェア」にスタッフとして参加、地域包括支援センターが認知症の相談窓口であることや、認知症について若い子育て世代にも広く知っていただくためのプログラムに積極的に協力しました。また、高齢化が進むマンションでの認知症セミナーを開催、キャラバン・メイトが日頃行っている認知症予防について発表しました。2月にはスキルアップ研修として施設の管理者を招き、認知症本人の意思決定支援の事例を通した学習会を開催しました。認知症を正しく理解しながら、ともに暮らせるまちづくりを目指して今後も活動していく予定です。



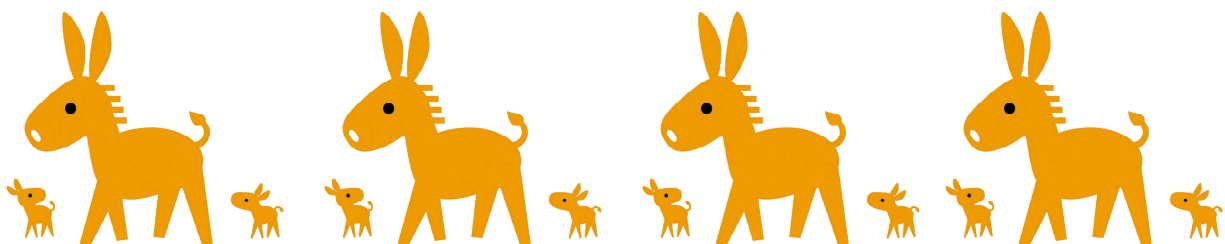
事務局会議



地域包括フェア



スキルアップ研修



【清和台地区】

今年度は清和台小学校、清和台南小学校、トナリエ清和台店舗職員、地域住民、自治会役員を対象に認知症サポーター養成講座を行いました。去年は実施できなかった、清和台南小学校でも行うことができ、認知症について学ぶ機会をもってもらえることができました。

また、毎年行っている認知症行方不明者SOSネットワーク訓練や、認知症月間の9月に合わせて、トナリエ清和台での認知症啓発イベントも実施しています。今年度は認知症啓発講演会・VR体験会の日に合わせて、普段はカフェ内で行っている「ひとやすみカフェ」を、人通りの多い1階広場での開催と認知症啓発パネル展示を行いました。

イベントで「ひとやすみカフェ」を初めて知った人もいたため、認知症カフェを知ってもらえるきっかけになったと思います。

認知症啓発や講座等、参加してくれる方の顔ぶれが同じことが多く、もっと多くの方に認知症について正しく知ってもらうためにはどうしたらいいかを、今後考えていく必要があると感じています。



【けやき坂地区】

けやき坂認知症福祉部会では認知症サポーター養成講座と認知症行方不明者SOSネットワーク訓練を行いました。

1月16日に開催したけやき坂小学校3年生への認知症サポーター養成講座では、昨年と同様オープンスクール時に行うことができたので、保護者の方にも子供達が認知症について学んでいる様子や講座について知ってもらえることができました。

終了後のアンケートでは「困っている人がいたらしっかりとよりそってあげた方がよいということがわかってよかったです」や「認知症の薬はつくれないのかな」といった感想があり、思いやりの気持ちをもつという大事なことが伝わっていました。

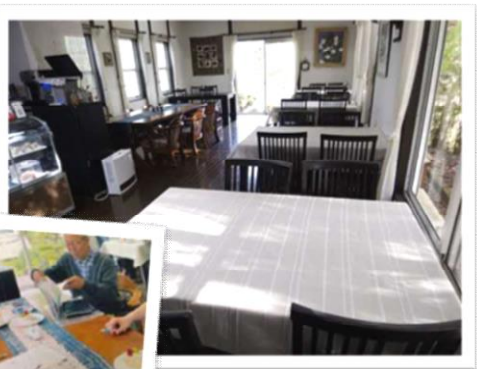
ももちゃんカフェでは、参加者が抹茶を点てたり、メイク講座やアロマ講座を不定期で実施しています。参加者も少しずつ増え、楽しく会話ができる場所となっています。



【東谷中学校地区】

昨年に引き続き、認知症のある方、そのご家族(介護者)と一緒に参加できる場を企画運営しました。地域にある喫茶店店主にもご賛同、協力いただきました。

「認知症」の発症から、ご本人やご家族(介護者)は、社会とのつながりが希薄になり、孤立化することがあります。この場が、そのような問題を解決するための一つになることを目指しています。



喫茶店でケーキセット注文して、おしゃべりを楽しむというごく普通のことのようと思われるようなことも、認知症の当事者(家族含)になると心理的なハードルが高くなるようです。

この企画は2つの希望を元に運営しています。

- ・「昔、通っていた喫茶店でコーヒーを飲みたい」という認知症当事者の希望
- ・「他の介護者の方は、どのような気持ちで介護をされているのか知りたい」という介護者の希望

当事者方々の「希望」を具体化し、安心して参加できる環境をつくるために4つのことを大事にしています。

- ・対話重視であること
- ・参加者の誰ひとりとして傷つくことがないように配慮すること
- ・当事者の方々からの希望に基づくこと
- ・参加者同士がつながり、共感し合える場であること



来年度も、当事者の希望をもとに、
つながりが広がるように取り組んでいきます。

【認知症地域支援推進員の活動報告】

川西市内8か所地域包括支援センター所属の認知症地域支援推進員が、市内在住、在勤の方へ向け、認知症サポーター養成講座を開催しました。(6月29日、2月15日)



認知症は、高齢の方だけでなく、社会全体で取り組んでいく課題の一つであることから、今回は、広い世代の方に受講していただけるよう配慮しました。

定員を超えるご応募があり、関心が高いテーマであることを、改めて感じました。

参加者のアンケートからは「何をサポートすれば良いか分からないときは、当事者に聞くことから」「サポーターとしてまずできることは、先回りして考えず、当事者と一緒に考えることから始めること」という感想が聞かれました。



認知症地域支援推進員は、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の根幹である当事者の視点に基き、新しい認知症観の普及啓発に取り組みます。

「認知症に対する誤解や偏見(古い認知症観)を取り払い、『新しい認知症観』の普及啓発を行うこと」「当事者の声を踏まえ、皆でアイデアを持ち寄り、誰もが自分らしく暮らせるまちにするため、何ができるかを考える」そういった機会を積み重ねることで、人と人がつながり、オレンジの輪が広がっていくよう、これからも取り組んでいきます。

かわにし新時代へ